

第20回森と花の祭典——「みどりの感謝祭」



秋篠宮殿下によるお言葉（写真上）
緑の少年団にお声をかけられる秋篠宮
同妃両殿下（写真右）



「みどりの月間（4月15日～5月14日）」を締めくくる行事として位置づけられ、国民と森林・樹木・花などの自然とのふれあいを通じて、その恩恵に感謝することを目的として開催される森と花の祭典——「みどりの感謝祭」が、5月9・10日の両日にわたって、東京都日比谷公園において開催されました。「森林の市」も併催され、会場は二日間にわたり元気な子供達の笑い声が響き渡りました。また、銀座では「緑の募金」の街頭キャンペーンが開催され、「国民参加の森林づくり」への参加を広く呼びかけました。

森と花の祭典——「みどりの感謝祭」は、本年度二〇回を数えます。九日に開催された式典には、秋篠宮同妃両殿下が御臨席されるとともに、河野衆議院議長、江田参議院議長、石破農林水産大臣が出席しました。そして、全国各地から集まった緑化や森林づくりに取り組む人々が見守る中、東京消防庁音楽隊の演奏に合わせて緑の少年団の子どもたちが入場行進を行い、式典が開始さ

れました。

続いて、主催者を代表して石破農林水産大臣が「我が国は国土の三分



石破農林水産大臣による挨拶

の二が森林でありながら、木材の自給率は二割です。残念ながら外材に八割頼っています。内需拡大という点ではこの八割に可能性があまりありません。地球温暖化が叫ばれる中、森林がCO₂削減に果たす効果は非常に重要であり、この森林資源を最大限に活かし、地球のため、世界のため、次の時代のために、大きな役割を果たしていきたい」と森林の整備と国産材の利用促進の必要性を訴え、そして、名誉総裁の秋篠宮殿下からは、「緑化活動の輪がますます広がることを願います」とのお言葉をいただきました。

続いて、式典では、「みどりの文化賞」の顕彰や、苗木と花の特別贈呈、緑の少年団代表による誓いの言葉などが行われました。

みどりの文化賞は北村昌美氏

「みどりの文化賞」は、緑豊かな国土と新しい森林文化の創造に資する観点から、平成二年に（社）国土緑化推進機構によって創設された顕彰制度で、緑や森林に関して顕著な功績のあった個人又は団体に贈られるものです。



贈呈式に出席された北村夫人

本年の「第二〇回みどりの文化賞」は、北村昌美氏（山形大学名誉教授）が受賞されました。人間と森林の交流や森林への期待の変遷を林学者の目で分析し、多くの論文・著作を発表する一方、中央森林審議会（現林政審議会）会長として、森林文化を土台に据えた二十一世紀の新しい森林行政の基本方針を示したことなどの功績が評価されての受賞となりました。当日の贈呈式には奥様の北村澄氏が代理で出席し、名誉総裁秋篠宮殿下からの表彰状が河野洋平衆議院議長より授与されました。

銀座では「緑の募金」街頭キャンペーン

みどりの感謝祭の式典終了後、東京・銀座の教寄屋橋公園では「緑の募金」街頭キャンペーンが実施されました。

今年も、大相撲関取の豊真将（ほうましよう）関や中央区観光大使の第二七代ミス中央の三人がゲストとして参加し、緑の少年団やガールスカウト日本連盟東京都支部の子どもたちとともに、内藤林野庁長官、谷国土緑化推進機構副理事長などが「緑の募金」への協力を通じての「国民参加の森林づくり」への参加を広く呼びかけました。



緑の募金キャンペーン

併催行事 「森林の市」

「みどりの感謝祭」の併催行事である「森林の市」には、全国各地から地元の木製品や特産品を紹介・販売するブースが並び、また、かんなくずのプール、木工細工の体験が出



かんなくずのプール（写真上）を使ったツリーライミング（写真右）も豊かな公園内を香りも豊か

来るブースなども出展されました。公園の樹林内ではツリークライミングが体験できるなど、都心の日比谷公園がこの二日間、家族揃って森林や森林の恵みを堪能できるフィールドに変身しました。